

5年ぶりの大改訂！！ 『小児呼吸器感染症診療ガイドライン 2017』一般販売開始

株式会社協和企画（代表取締役社長：山田淳史、本社：東京都港区）は、12月1日より、『小児呼吸器感染症診療ガイドライン 2017』の販売を開始しましたので、お知らせいたします。

【概要】

- ◎ **監修**：尾内一信、岡田賢司、黒崎知道
- ◎ **作成**：小児呼吸器感染症診療ガイドライン作成委員会
- ◎ **発行**：株式会社協和企画
- ◎ **定価**：本体 4,000 円＋税
- ◎ **体裁**：B5 判、本文 272 ページ、アジロ無線綴じ
- ◎ **改訂・変更のポイント**：

5年ぶりの改訂版は従来から大きく形式を変えて EBM ガイドラインとして上梓しました。エビデンスが少ない小児の呼吸器感染症に関して、できる限り国内の信頼できる文献を検索し、日本にデータがない場合は海外の文献を拠り所として、9 疾患・分野における 37 問の Clinical Question (CQ) に対してエビデンスに基づいた治療法を推奨・解説しています。ガイドラインとしての「推奨レベル」を委員が投票する形式で集計されている点も原因微生物の同定を待てない疾患群の診療の難しさを表しており、大きな特徴といえます。薬物治療以外の疫学や診断などについては解説編として別項で最新の知見を収録し、重要な図版はカラー口絵で紹介しています。肺炎から予防接種対象疾患までを網羅しており、わが国において小児呼吸器疾患の診療に関わるすべての医師、必携の一冊です。

◎ 特長

- ・「グループに対する標準的な治療」、「細気管支炎に対するステロイド投与の是非」、「市中肺炎の抗菌薬選択/投与期間」などの日常よく遭遇する感染症の疑問点に答えています。
- ・「膿胸」、「免疫不全症/新生児の肺炎」、「人工呼吸器関連肺炎」などの稀でありながら重症化しやすい感染症の標準的な治療の考え方を示しています。
- ・「研修医から指導医まで」、「一次医療現場から三次医療現場まで」、小児の呼吸器感染症の診療に携わる幅広い層に役立つ内容になっています。
- ・「百日咳の新しい診断基準と診断のフローチャート」が含まれています。
- ・重要な参考文献の要約がされているためエビデンスを理解しやすい構成となっています。

※注文は全国の医書取扱書店にて受け付けております。また、弊社ホームページからもご購入できます。

本リリースに関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社協和企画 〒105-8320 東京都港区虎ノ門 1-10-5

担当：提箒（さげはし） TEL：03-6838-9221 e-mail:sage@kk-kyowa.co.jp